

【三春町】 「三春の美事 vol.3」フォトハガキを使った 「みはるの魅力発信サポーター」の募集について

三春滝桜”じゃない”三春の魅力を発信するため、町内の歴史や文化、自然などにスポットを当てたフォトハガキ「三春の美事 vol.3」を作成しました。

今回、このフォトハガキを活用して、三春の魅力を町内外に発信いただく方を「みはるの魅力発信サポーター」として下記のとおり募集します。

なお、令和4年度より実施しております本事業は、三春町や郵便局などが連携し、郵便番号を切り口として地域の魅力を発信する「963project」として実施している事業です。

◆ 三春の魅力発信サポーターの概要

募集条件／「三春の美事 vol.3」のフォトハガキを使って、知人や友人、親類などに一言メッセージを添えて送っていただける方

申込方法／次のいずれかの窓口でお申し込み

- (1) 三春町役場 企画政策課
- (2) 三春まちづくり公社（三春の里田園生活館、三春きたまち蔵、三春なかまち蔵、ばんとうプラザ）
- (3) 三春町内郵便局
（三春郵便局、三春駅前郵便局、三春八幡町郵便局、中妻郵便局）
- (4) 郡山・田村（田村市・小野町）管内郵便局

申込受付／令和7年1月20日（月）から

※協力いただける方には、「三春の美事 vol.3」フォトハガキ（8種1セット）をお一人様最大3部贈呈。

※協力いただけるサポーターにはアンケートの協力をお願いします。

【本件に関するお問い合わせ】

三春町 企画政策課 企画政策グループ TEL：0247-62-1122



三春の美事

みごと

vol.3



ヒントは 郵便番号

わかるかなあ〜

「神は細部に宿る」という有名な言葉があります。元々はドイツの美術家や建築家から生まれた言葉だそうです。これはディテール(細部)にこだわった丁寧な作品には作者の強い思いが込められており、「まるで神が命を宿したかのごとく不朽の作品として生き続ける」と言うような意味です。

三春町の身近にある文化財や自然、そこに脈々と伝わる伝統や行事。その土地ならではの生産物や物語にも同じような視点で見つめてみれば、何か新しい発見があるかも知れません。

未来へ繋がる創造の発芽を郵便番号というナビゲーターを地図に照らし合わせて探してみませんか？

みはるにあるよ

お問い合わせ
三春町役場 企画政策課
TEL.0247-62-1122

「三春の美事」
フォトハガキ
8枚セット

983
project



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7765



963-7765

福島県田村郡三春町荒町169

法蔵寺

法蔵寺は、三春町内では最も古い寺院で、一遍上人を継いだ遊行二祖真教上人が、鎌倉時代中期の1289（正応2）年に開山しました。毎年7月には蓮の花が美しく咲き誇ります。

本尊の阿弥陀如来坐像は、1726（享保11）年の作で、胎内には鎌倉時代の作とされる高さ22センチの木造阿弥陀如来坐像が納められています。本尊の両脇には、観音菩薩、勢至菩薩の立像が配されており、左側には甘酒地藏とも呼ばれる木造彩色の地藏菩薩立像が配されています。さらに、正門の柱には、銅板彫金の赤い鯉が見受けられます。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7746



963-7746

福島県田村郡三春町馬場176-2

正徳地藏尊(子育て地藏)

『三春町史』によりますと、1715(正徳五)年六月、紫雲寺の僧侶「順西」から出されていた六地藏建立の願いが許可され、六地藏は、三春の城下町と周辺の村との境界に建立されました。外から悪い事が入ってこないようにと結界の目的で建てられたとも考えられています。その中の一体、「正徳地藏尊(子守地藏)」は、古来より長寿妙薬とされている桃を手を持っていることから、子育て地藏尊と延命地藏尊として、地域住民が維持管理しているお堂に奉られており、靴を脱いでお堂に上がり、誰でも参拝することができます。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7751



963-7751

福島県田村郡三春町字北町10

三春きたまち蔵

三春町には、食料や商品を保管する倉庫蔵や住居として使用していた座敷蔵などが点在し、現在もショップやカフェとして活用されており、かつての商人の繁栄を偲ばせるものがあります。2つの蔵が立ち並ぶ「三春きたまち蔵」には、道路に面した土壁の倉庫蔵と、奥に白壁の座敷蔵があります。土壁の蔵は、観光案内所「TENJIN」として2018（平成30）年オープン。街なか周遊の休憩スペースとしても利用されています。奥の蔵は、モミジの木を用いた床柱や、杉の天井板、黒柿を至る所に使うなど、豪華な装飾が施された客間が保存されています。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7723

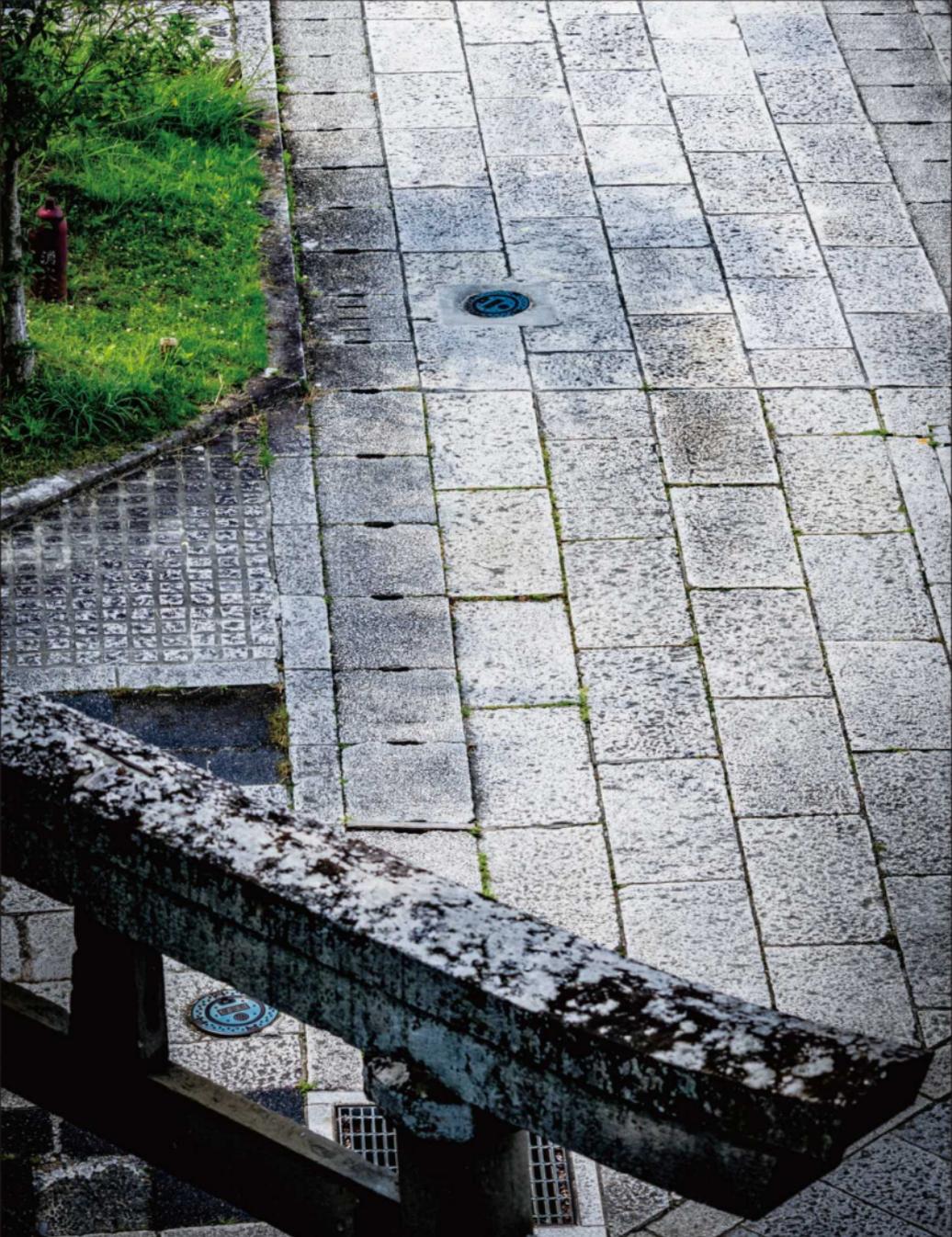


963-7723

福島県田村郡三春町斎藤斎藤

松樹神社

松樹神社まつきの起源は、戦国時代の1570(元亀元)年に妙見菩薩を勧請したのがはじまりといわれており、明治3年の神仏分離令により、松樹神社と改名されました。管理は三春町斎藤区で行っています。松樹神社内には太鼓堂(写真)があり、今から約30年前までは、副区長が地区の集会が始まる30前に太鼓を叩いて知らせていました。現在では、大晦日には除夜の鐘の代わりに、この太鼓を叩いています。さらに、斎藤区では松樹神社の鎮守祭を春と秋に実施しており、祈祷や清掃をして松樹神社の維持管理をしています。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7759



963-7759

福島県田村郡三春町大町地内

磐州通り

紫雲寺山や城下町時代を偲ぶ社寺の付近を通る石畳の小道は、「磐州通り」と呼ばれています。名称は、明治時代、自由民権運動に力を注いだ東日本を中心人物「河野広中（磐州翁）」の遺髪を埋めた塚が「紫雲寺」にあることにちなんでいます。通りには、「加波山事件自由の魁の碑」もあり、自由民権運動の歴史を後世に伝えていきます。通りを整備する際に、周辺にお住まいの方々との話合いから、付近の社寺と調和した景観づくりが行われました。現在も地域の方々による日常の清掃活動により、維持管理されています。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7767



963-7767

福島県田村郡三春町御免町194

福聚寺

福聚寺は、三春城主田村家の菩提寺で、臨済宗の寺院。住職は芥川賞作家でもある玄侑宗久氏。1339（暦応2）年常陸の復庵宗己禅師を招いて田村輝定公が創建し、16世紀初めに現在地に移転。所在地の御免町は「寺入り御免」に由来し、権力に抗する人々が福聚寺に駆け入り保護を願っていることができました。田村隆顕と清顕が寺に出した「田村氏掟書」は、県指定の重要文化財で、他に雪村筆「達磨図」の文化財もあります。本堂・庫裡の屋根は、茅葺屋根だった形を残しながら、銅板に葺き替えて、2020（令和2）年に完成しました。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7722



963-7722

福島県田村郡三春町西方石畑487-1

三春の里 田園生活館

田園生活の豊かさ・楽しさを提案する「三春の里田園生活館」には、茅葺き屋根の古民家「里の茶屋」があります。「里の茶屋」は、「三春ダム」の建設により、湖に沈む予定だった農家住宅を移築して残したものです。茅葺屋根の施工については、町内の職人・故仲村章さんが中心となって担当。仲村さんは「町に立派な茅葺屋根が残るのなら」と二意奮闘して、地域の方の幸せを祈る「寿」、防火を意識した「水」という飾り文字を施しました。田園生活館には、売店、入浴施設などもあり、町民はもちろん、三春町を訪れる多くの方に利用されています。



GOD IS
IN THE
DETAILS
OF

963-7765



963-7765

福島県田村郡三春町荒町地内

荒町火の見櫓

三春城下の荒町は一般の町人（庶民）が暮らした町の一つで、法蔵寺下の見附から本宮方面への街道および小浜（岩代）方面への街道口にあたる荒町四谷の木戸までの街並みを指します。三春が会津の蒲生家（氏）の領地だった時代に建設されたといわれており、初めは新町あたらしまちと書きましたが、後に新町しんまちができたため、荒町と書くようになりました。

現在の荒町の住宅街には、近年見かけなくなった火の見櫓みえぐらがあります。火の見櫓は、江戸時代より各所に整備されており、写真のような電柱を利用した櫓は、昭和時代のものと思われまます。